

希望胸に大学生生活スタート

学部生、院生ら419人入学祝う

2022（令和4）年度の入学式が2日（土）、本学アリーナで行われ、学部生378人、大学院保健科学研究科13人、助産別科20人、キャリア教育研修センター8人の計419人が本学での生活をスタートさせました。



写真左は、宣誓後、竹屋学長にあいさつする菅穂乃花さん（リハ学科OT専攻）。同右は式辞を述べる竹屋学長



新型コロナウイルス感染防止のため、式典は昨年度に続き3回に分けて開催。9時半から医学検査学科とキャリア教育研修センター認定看護師教育課程 脳卒中看護分野、11時半から看護学科と助産別科、14時半からリハビリテーション学科と大学院保健科学研究科の入学式がそれぞれ行われました。

このうち、医学検査学科の入学式では、入学許可が宣言された後、竹屋元裕学長が「大学とは『人生の設計図』を描く場所。それぞれの個性を生かしつつ、皆さん独自の『大きな設計図』を描くことをお願いします」と式辞。新入生を代表して桑野花菜さんが、「熊本保健科学大学の学生として誇りを持ち、実りある学生生活を送ることを、ここに誓います」と、宣誓しました。なお、看護学科の入学式では中村有伽さん、リハビリテーション学科の式典では菅穂乃花さん（生活機能療法学専攻）が宣誓しました。

式典前後には、レストラン前の「入学式」看板をバックに記念撮影する新入生たちの姿が見られました。

熊本保健科学大学に移行し20年目となる本年度は、リハビリテーション学科理学療法学専攻定員を20人増員しました。

学科専攻の新入生内訳は次の通りです。

医学検査学科120人、看護学科120人、リハビリテーション学科138人（理学療法学専攻70人、生活機能療法学専攻43人、言語聴覚学専攻25人）



レストラン前の「入学式」看板をバックに記念撮影をする新入生たち

高校1、2年生を対象としたキャンパス見学会が3月26日（土）に開催され、計101人の高校生が参加しました。新型コロナウイルス感染防止のため、人数を制限し、午前・午後の2回に分けての実施となりました。

午前、午後とも全体オリエンテーションの後、学科紹介や模擬実習、実習室見学等を企画。このほか、進学・奨学金相談に応じたり、在学生（ピア・サポ-

おいでよ！熊保大へ

ーター）との交流会を実施したりしました。参加者は「先生や先輩方と話して、気になることや不安が解消されました」「実習室に加え、レストラン、図書館等の共用施設を見学できて良かったです。広くて最新の設備が整っておりびっくりしました」「こんな素敵な大学にぜひ私も入学したいと思いました」などと感想を口にしていました。（入試・広報課）

高校1、2年生対象にキャンパス見学会



学内見学ツアーで図書館の説明を受ける高校生



模擬実習を行う医学検査学科の古閑教授

小耳聞き耳 ミニインタビュー

医学検査学科の原口実紗講師がこのほど、日本不整脈心電学会の「心電図検定」2級に合格。成績優秀者の1人として同学会HPでも紹介されました。原口講師に受検の動機などについて聞きました。

心電図検定2級に合格した 原口 実紗講師（医学検査学科）

ー心電図検定とは？

医療関係者なら誰でも備えるべき心電図判読能力の向上をめざすとともに、心電図にかかわる多くの知識の普及を目的にしています。4級から1級まであり、1級合格者の中でも成績が優秀な人には「マイスター」の称号が与えられます。ちなみに、2級は「高度な判読力を有するもの」とあります。

ー受検を思い立ったのはなぜ？

私は臨床検査技師や超音波検査士の資格を持っていますが、「心電図」と名が付くなんらかの肩書を加えることで、教え子たちに対しても（心電図判読について）説得力のある指導ができるな、と思ったのが受検の理由です。それと、検定自体が臨床現場の医師から学生まで誰でも気軽に受けられるということもきっかけになりました。合格通知が来たときは、さすがにほっとしました。

ー今回の経験を今後、どのように生かしたい？

気軽に受検できるわけですから、指導の一環として学生たちにも勧めたいと思っています。私自身、来年は1級にも挑みたいですね。

肩書
加え
指導に
説得力



合格証書を手にする原口講師

◆退職者11人を送る 「退職者送別の会」が3月24日（木）、50周年記念館で開催されました。竹屋元裕学長が定年等で退職する教職員11人を紹介。出席した5人の退職予定者が登壇し、惜別の言葉を語りました。山元総勝教授（学長特別補佐＝国際担当、リハ学科理学療法学専攻）は、リハ学科開学を前に沖縄リハ学院から本学リハ学科準備室に入職したいきさつを振り返りました。また四綱領についても触れ、「臨床実習を通して『思慮』『仁愛』の心を育ませることが大切だ」と説きました。森山雄三助教（看護学科）、岩村健司講師（リハ学科言語聴覚学専攻）、杉本智波専任教員・講師（キャリア教育研修センター 脳卒中看護）もお別れの挨拶をしました。送別会は昨年度から大学主催で開催されています。今年は、Zoomで中継されました。

（安部悠介）



退職者送別の会であいさつする山元総勝教授

◆利益相反について学ぶ 令和3年度の第2回利益相反に関する研修会が3月23日（水）開催され、本学園顧問弁護士を務める馬場啓弁護士が、具体的な事例を交えながら利益相反に関する基本的なことからについて講演しました。Zoomと録画視聴者を含め計130人が参加。講演の中で馬場弁護士は、本学の利益相反マネジメント規程第3条にある「利益相反の判断基準」を取り上げ、「社会貢献活動の必要性が生まれた大学では利益相反は発生する。社会通念上妥当とされる範囲を著しく逸脱しないよう、形式的・実質的なチェックポイントを守ることが重要」と話し

ました。また、「日大背任事件」や「学生アンケートと学問の自由」といった興味深いトピックも取り上げていました。（安部悠介）

◆新規採用者20人にオリエンテーション 新規に採用された教職員20人を対象とする「新規採用者オリエンテーション」が1日（金）、実施されました。午前中は就業規則や各課の業務内容等を説明。午後には辞令交付式があり、引き続き、学内情報システムについての説明や施設見学等が組み、参加者は真剣な表情で取り組んでいました。（安部悠介）

◆アリーナに Rest & Learning Space 本学アリーナにトレーニングエリアが設けられるのに先立ち、1階と2階に Rest & Learning Space が登場しました。テーブルや椅子を据え付け、トレーニングで疲れた体を癒したり、自らの体やトレーニングについて学ぶために活用してもらおうというものです。トレーニングエリアは5月の連休明けより運用開始予定です。一方、1号館では、1301講義室Lが完成しました。PTの定員増および新型コロナウイルス感染症対策に伴い160人程度を収容する講義室が不足することが予想されるため、1301講義室Mと1302講義室Mの壁を取り払い拡張し、新たな講義室としてリニューアルしました。

（安部悠介）



アリーナ1階に設置されたベンチとテーブル、椅子